

全身MRI画像の提出

- 1) 全脊椎 T1 強調像(原則 矢状断)
- 2) 全脊椎 STIR 像もしくは脂肪抑制 T2 強調像(原則 矢状断)
- 3) 全身[†]T1 強調像(水平断もしくは冠状断、Dixon 法が望ましいが、Gradient Echo 法の inphase/opposed phase も可とする)
- 4) 全身[†]拡散強調像[‡]、b 値 0-100, 800-1000s/mm² (原則 水平断、parallel imaging 併用)、mono-exponential model による ADC map 作成、b 値 800-1000 s/mm²の画像の冠状方向および矢状方向を含む多方向 MIP 処理
- 5) 全身[†]T2 強調像(撮像方向や脂肪抑制付加は問わない)

[†]全脊椎と体幹骨を必須とする。頭蓋骨や四肢はオプションとする。

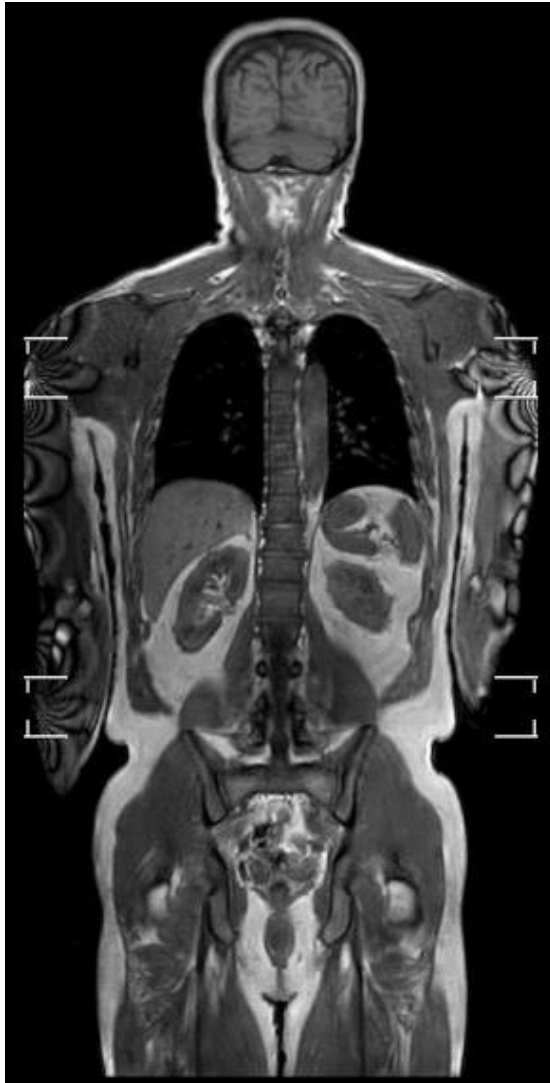
[‡]撮像方向: 拡散強調像は水平断での撮像が原則であるが、冠状断、矢状断で撮像しても良い。2017 年に欧州泌尿器科学会が発表した前立腺癌の骨転移を評価する構造化レポートシステムである MET-RADS-P (METastasis Reporting and Data System) では拡散強調像は水平断で撮像と記載されているが、水平断が優れているという十分な根拠はなく、冠状断、矢状断で撮像しても通常再構成は可能である。



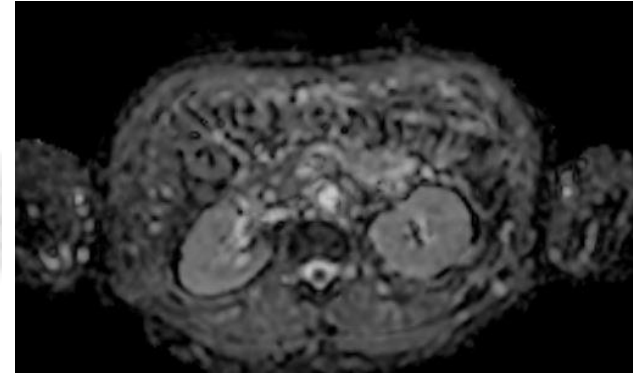
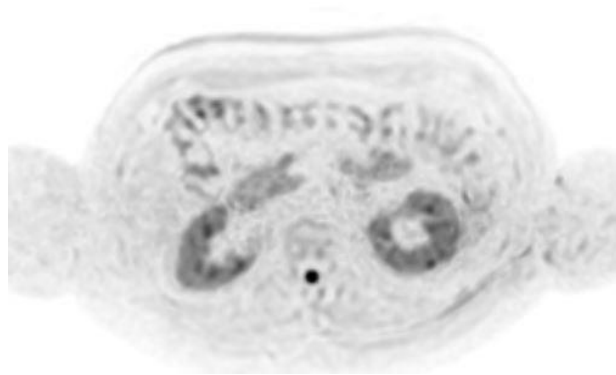
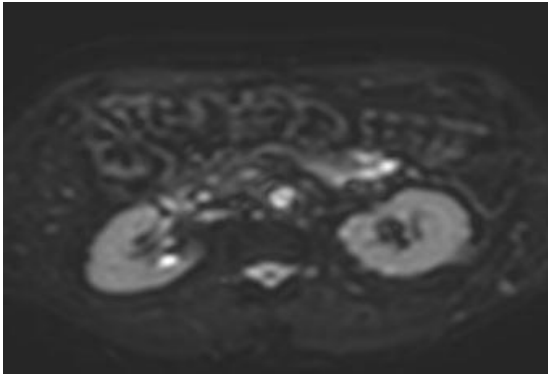
1) 全脊椎 T1 強調像



2) 全脊椎 STIR 像もしくは脂肪抑制 T2 強調像



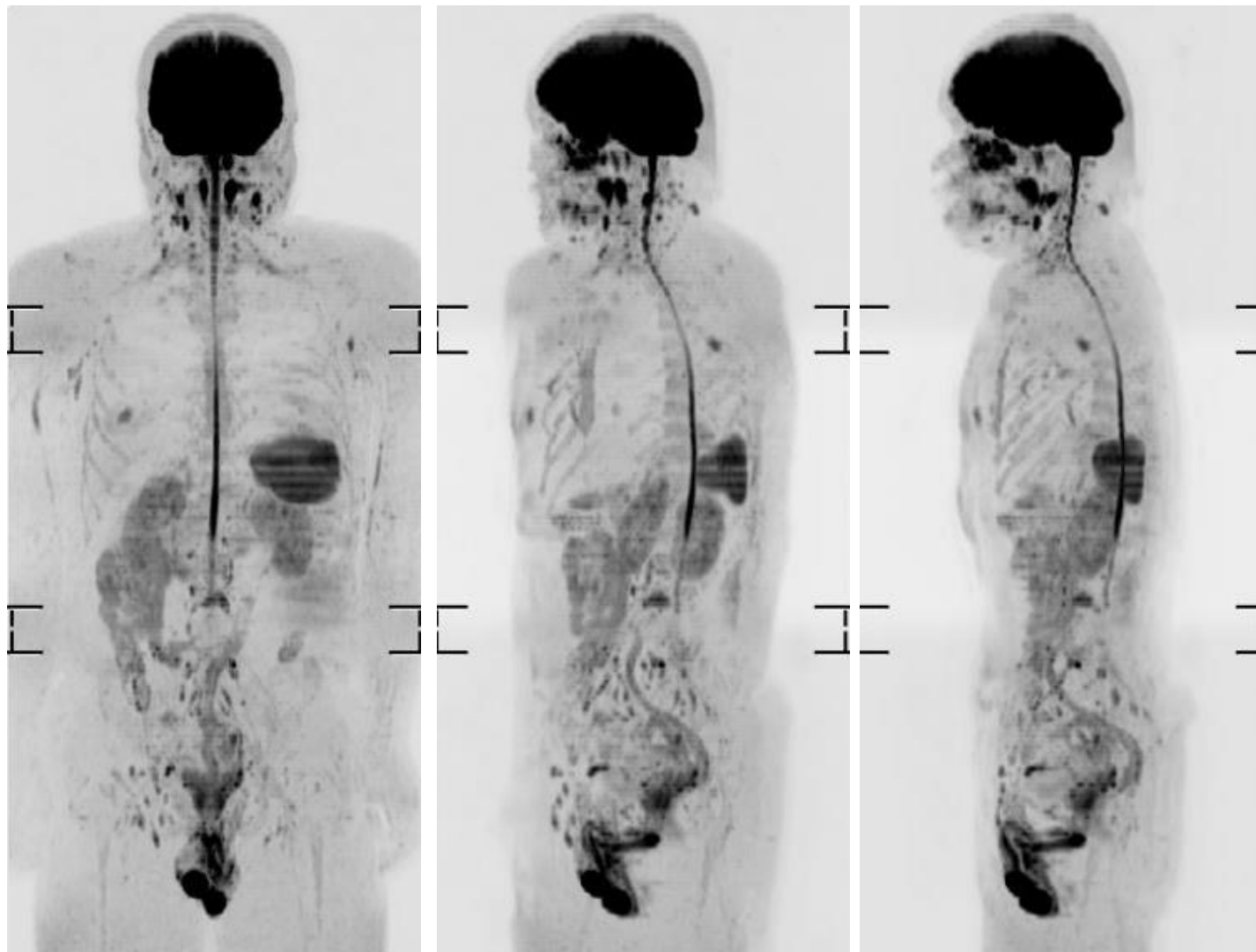
3) 全身T1 強調像



4) 全身拡散強調像
b 値 0-100s/mm²

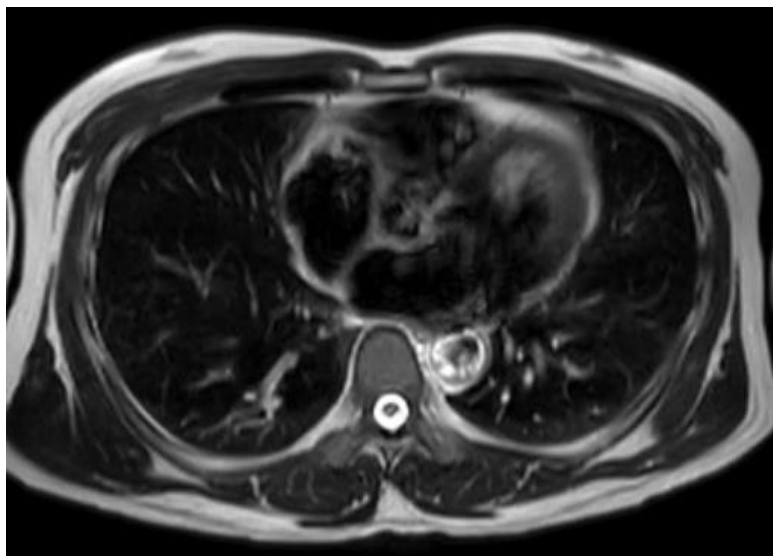
b 値 800-1000s/mm²

ADC map



4) 全身拡散強調像

b 値 800-1000 s/mm^2 の画像の冠状方向および矢状方向を含む多方向 MIP 処理



5) 全身T2 強調像